

# 城山会会報

## 第50号〈記念特集〉

同窓会事務所

〒811-4192 福岡県宗像市赤間文教町 1 - 1

福岡教育大学同窓会 城山会事務局

TEL / FAX 0940-33-2211

e-mail : joutamakai@able.ocn.ne.jp

URL : <http://katumi.server-shared.com/>

発行者 会長 太田 勝視

発行日 令和 2 年 1 月 10 日

印刷所 松古堂印刷株式会社



表紙写真 提供：福岡教育大学（上段）、附属福岡中学校（下段）

### 目次

同窓会城山会会長あいさつ .....	2
学長あいさつ .....	3
令和元年度夏期研修会、大学支援委員会 .....	4
第7回学生・新卒・若手会員情報交換会、2月のつどい .....	5
支会活動報告 .....	6
青年部の取り組み .....	7
福岡教育大学の将来に期待する .....	8
第二の人生を生き生きと .....	9
わたしの教育実践 .....	13
会員に聞く .....	14
大学時代の思い出 .....	15
教師をめざして .....	16
教員採用試験及び就職状況について .....	17
令和元年度役員組織、事業実績 .....	19
城山文藝・編集後記 .....	20

# 令和元年節目の年 更なる前進を！

## — 母校「創立70周年」 同窓会「完全統合30周年」 —

会長 太田 勝視



母校は昭和24年（1949）福岡学芸大学として創立、昭和41年福岡教育大学と改称、本年で創立70周年を迎えました。九州唯一の国立教員養成単科大学として多くの教員を送り出しています。現在4万数千名の卒業生は、福岡教育大学で学んだ教育を誇りとして、

福岡県内はもとより西日本各県の教育界をはじめ各県で活躍をしています。また現同窓会は、平成2年（1990）8月、城山会として四者（鶴陽会・富陵会・壬戌会そして福岡教育大学同窓会）の完全統合がなされ、一大学一同窓会の歩みがスタートしました。今年が統合体「城山会」として新たな出発をして30周年の節目の年に当たります。

本年も支部・支会組織の確立・活性化を城山会の重点課題として、活動を行ってきました。各県支部については28年度の熊本県支部に引き続き、30年度は大分県で支部発足ができました。現在は鹿児島県支部の早期発足に向けての取り組みを進めています。更に今後も西日本各県を中心に支部の拡大を目指します。

各支会の活動の活性化に向けては、支会役員を中心にした取り組みへの努力のおかげで、総会・研修会等での会員参加者の増加、特に若い会員の参加が見られ活気が感じられました。大変喜ばしいことであり、取り組みの成果でもあります。また、新規採用・若手会員の組織化に向けては、多くの支会でその地域の実情に合った青年部組織が出来ました。今後は青年部を主体とした取り組みが進むことを願っています。女性部についても、「2月のつどい」な

ど青年部と連携をとりながら、積極的な活動の推進をさらに期待しています。

本部では若手会員や学生への取り組みとして「新卒・若手会員情報交換会」を始めて7年目になります。「若い人たちが母校に集い、日頃の実践の中での楽しいこと・悩みなどを交換し合い、明日からのエネルギーに変えていく。」「学生には教職に対するあこがれや夢・情熱を持っていただきたい。」そんな思いから始めました。今回は多くの学生・若手会員の参加が見られました。参加者から「毎年このような会が続いてほしい。」という声も聞かれました。今後も、城山会が「役にたつ。来てよかった。楽しい。」と言われるような事業を推進したいと思います。

母校福岡教育大学は、教員養成機能における広域の拠点的作用を目指す大きな改革が進められています。更に、教員就職率90%を達成する目標があります。教員採用試験本学学生の合格状況も年々向上しています。同窓会としても大学改革の充実、そして大学が提起された令和3年度末教員就職率90%目標達成に向けて、後援会との連携もとりながら、積極的に引き続き支援して参りたいと考えています。

終わりに、今年度初めに城山会旗を各支会に配付致しました。旗の文字は「すべての卒業生が強い同窓意識や絆を礎に、誇りをもって生きていくことを願って」大学支会 和田圭壮先生に揮毫していただきました。支会旗は総会で掲揚・紹介し会員としての意識や士気の高揚につながったと喜んでいただきました。

城山会旗の下、みんなで集いましょう。そして城山会のこれからあるべき姿について十分議論を尽くし、「魅力ある城山会」づくりを更に目指したいと思います。各支会の精力的かつ積極的な対応、そして会員各位のより一層の奮起を期待します。

### 定期総会 報告

第44回定期総会は、平成31年4月29日(月)11時より福岡市博多区の「ホテルクリオコート博多」において、城山会顧問、各県支部の代表、歴代会長をはじめ147名の会員の参加を得て盛大に行われた。

冒頭の挨拶の中で太田勝視会長は、重点目標「組織の確立と活動の活性化」の成果を語られ、関係者の尽力に対し謝辞を述べられた。また、新たに整備した各支会・支部毎の旗を披露し、機会を捉えて掲揚して会員の所属感を高揚するようにと語られた。来賓祝辞では、城山会前会長で大学支援委員会事務局長の毛利公亮氏が「会員としての絆と誇りを大切にしながら、刻々と変化する時代の変化に対応した魅力ある同窓会づくりに期待する。」と激励さ



## 第3期中期目標・中期計画の 暫定評価を迎えて

福岡教育大学 学長 櫻井 孝俊



平成16年に福岡教育大学は法人化したしました。文部科学大臣は各法人と調整をとり、1期6年間の各法人の目標を定め、大学はその目標を達成するために中期計画を策定し、認可を受けました。この中期計画を6年かけて実行するので

す。令和元年度の今年は、第3期中期目標・中期計画の4年目に当たります。本来であれば、6年が経過した後には中期目標の達成度に対する評価がなされ、次期中期目標が立てられ、予算（大学の運営交付金）が決定します。しかしながら、中期目標の決定には先述のように、大臣との調整が必要であり、少なくとも半年はかかってしまいます。従って、第4期の中期目標と予算を策定するために、今年までの4年間の成果を暫定評価し、特に予算に大きく反映させようとしています。

第3期の中期目標は多岐にわたりますが、本学の基本理念は「豊かな知を創造し、力のある教員を育てる」であり、この理念のもと「義務教育諸学校に関する教員養成機能における広域の拠点的作用を目指す」ことを目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図るべく改革を行ってきました。本学は教員のライフステージ（養成から育成まで）全体に関わって支援を行っていくことを明言しています。今年3月に九州教員研修支援ネットワークの立ち上げを行いました。これには九州各県の教育委員会や全

ての政令指定都市と一つの中核市である久留米市の教育委員会が参加しています。大学では、九州管内の国公私立大学の19校が協力を約束していただいています。ネットワークの今年の活動としては、各機関の情報の提供と共有を図り、また、研修プログラムの開発や、研修に関わる人材バンクの構築を試み、その成果が待たれるところです。これには同窓会のご協力も必要であると思っています。

もう一つ、重要な数値目標があります。それは教員就職率9割を達成するというものです。ここで言う教員就職率とは、その年の卒業生総数から大学院への進学者と保育士就職者を除いた数で、非常勤を含む教員就職者総数を割った割合のことです。この数値を令和3年度末までに9割以上にするものです。このためには、卒業生の教員採用試験受験率が9割を超えない限りは、所詮無理な話です。そこで、平成28年度に学部制度、学生の指導体制、カリキュラム改革に加えて入試改革を行いました。おかげさまで、入学時点での教職志望率は以後97パーセント以上を維持し、教職員の努力や同窓会のご支援により、平成28年度入学生の教員採用試験受験率は9割近いものになりました。皆様のおかげで、この数値目標の背中が見えてきたところです。実は、数値の高さだけでなく、本学の学生定員数は11教育大学で5番目ですので、教員養成の人数の多さにも反映します。

暫定評価で、できるだけ高い評価が得られるように全学で努力をしています。どうぞ、同窓会からのご支援をお願いいたします。

れた。議事は、議長である尾崎和人氏による進行のもと、第1号議案から第5号議案まで原案通り可決された。本年度は「新年の会」の実施年度であることから新たに30万円の予算が計上された。また、青年部活動費については更なる活性化を図るため20万円に増額された。退任者への感謝状は昨年度まで福岡地区選出の副会長であった白石哲雄氏へ贈られ、氏は会員の長年の協力への感謝の気持ちと城山会の発展への期待を述べられた。

なお、総会後の懇親会には156名の会員が参加し旧交を温めた。  
(本部幹事長 田中 和隆)



**夏期研修会報告**  
**城山会の未来を語る！**

令和元年度夏期研修会は、令和元年8月4日（日）午後1時30分より福岡リーセントホテルにおいて、総勢127名が集い開催された。司会は、白木事業部長であった。

まず、太田会長が挨拶の中で城山会の3つの方向性を語られた。

- ①各支会では、青年部主体の事業の活性化を期待したい。
- ②各県の支部発足を支援していきたい。
- ③大学支援の充実を継続していきたい。

次に、本年度担当福岡地区の釜瀬副会長から本日の会の目的と日程について説明があった。これを受け田中幹事長から4～7月の事業報告があった。

その後、矢野副会長を座長に協議に入った。本年度は、福岡地区 宗像支会の高田英也氏から会員増加への取組等の報告があった。

また、筑豊地区 田川市支会の道高修一氏から支会の歴史・支会便りの取組・青年部主催事業の実施等の報告があった。

質疑では、活動内容・会費の徴収の方途・小中連携の取組等が出された。谷副会長の講評では、「質疑を含め未来を語るに相応しい内容であった。」と協議を締め括られた。

講演では、城山会会員でもある筑紫野市教育委員会教育長の上野二三夫氏から教育現場から見た城山会への期待を熱く語られた。令和のスタートを城山会の未来を語る夏期研修会として盛会のうちに終了することができた。

（副幹事長 鍋島 直明）



講演会の様子

**令和元年度 福岡教育大学支援委員会報告(概要)**

日時	令和元年12月7日（土）	顧問会議10時～	大学支援委員会11時～	懇親会12時30分～
場所	ホテルクリオコート博多	大学・支援委員・城山会役員等（30名）		

顧問会議では、支援委員会委員の更新、大学支援の在り方（未来奨学金、大学基金等）、事務局体制、県外支部設立の件等の報告、及び、それに対する了承がなされた。

大学支援委員会では最初に太田会長が城山会や大学支援の現状等を含め挨拶した。

次に櫻井学長が挨拶の中で城山会が大学創立70周年記念事業に参加協力したことへのお礼、大学改革の進行状況やその成果を述べ、学長選に触れ、後任の学長には数学教育ユニットの飯田慎司教授に決定したことなどを話された。続いて前谷事務局長から福教大の財務・施設管理の現状説明が行われた。

- ①国立大学法人化に伴い継続的に交付金削減が行われている影響により、累積減額総合計が約70億円程度である。
- ②減額の影響が深刻化し建物・施設・設備の改築・修理等ができず老朽化が進行している。
- ③大学運営で使用する費目では人件費が80%以上であり、その他の管理運営費が不足の状況である。
- ④交付金は、外部資金獲得を含めて国の大学評価の影響を受け、評価の高い大学に多くの交付金を出し、低い大学には少ない交付金しか配分されない現状がある。
- ⑤教育大学は外部資金獲得率も低く、評価が低いため交付金が減額されているなどが報告された。

続いて、永富参与から令和元年度の教員就職状況は、二次試験最終合格者が合計380名で、昨年度よりも約100名程度増加したことが報告された。合格者増加の背景には①学生の就職意欲の高まりに応じた受験者数の増加、②学生の県別受験ニーズに応じたきめ細かな指導の充実、③福岡県採用者数の多いこと等の現状が説明された。課題としては①教員採用試験未受験学生の存在、②大学教員の学生の進路状況に対する関心の有無等の意識の差が就職率等に大きく影響していることなどが説明された。

協議の終盤に中島大学支援委員会副委員長から、城山会先輩としては大学に協力する用意がある旨の意見が出された。大学基金100名以上の達成を含め、諸課題は次年度に向けた役員会等で検討していきたい。

（本部副会長 谷 友雄）



大学支援委員会の様子



## 第7回 学生・新卒・若手会員 情報交換会 組織部・青年部

10月26日(土)、福岡教育大学アカデミックホールにて「第7回 学生・新卒・若手会員情報交換会」を開催しました。参加者は161名で、その内、学生が45名でした。会の名称に今年は「学生」の文言が加わりました。今回は青年部を中心に、学生への支援をねらいとして企画しました。

- 午前中は、安藤菜那先生(北九州市)、岡本啓吾先生(田川郡)の2名の実践報告でした。どちらの実践内容も素晴らしく、これから教師を目指す学生にとって、教師のやりがいとは何かを考える機会となったのではないのでしょうか。



実践発表の様子

- 午後は、福岡教育大学キャリア支援センター長の生田教授がファシリテーターとなり、学生の質問に、新卒・若手・青年・レジェンド会員が答えるグループ交流会を行いました。

【学生】…「教師の一日の仕事の中で一番重要なところは何かですか。」

【若手】…「放課後の同学年の先生との情報交換を大切にしています。」

【学生の感想】…「貴重な体験になり、リアルな話が聞けました。4月からがんばろうという気持ちになりました。」「教師の間のネットワークが大事だなと思いました。」

そのネットワークの一つに城山会があるのだと、参加者が感じることができた研修会となりました。

(青年部 関 和浩)



グループ交流会の様子  
(学生、若手会員の質疑応答と見守るレジェンド会員)



## 平成30年度 女性部「2月のつどい」

平成29年度より女性部は、支会や青年部と連携し、広く会員に参加を求めめる研修会「2月のつどい」を新たにスタートさせました。

2回目は、平成31年2月3日(日)13時より福岡リーセントホテルにおいて、参加者約90名で開催しました。

**講師 郡司 琢哉氏**  
(テレビ熊本アナウンサー、気象予報士)  
「報道現場で生かされる教育の力」

実践発表①山下直也先生 北九州市立榎田小学校  
実践発表②猿樂知子先生 水巻町立伊左座小学校

まず、郡司氏の美しい発声に引きつけられました。常に進路の目標を持って中学、高校、大学と学んでこられた姿勢は感動の連続でした。なお、講師の郡司氏は本学の卒業生(特別理科H12卒)です。

山下先生は、学校の課題に精力的に取り組まれる姿に中堅教員としての力を感じました。

猿樂先生は、2年目の先生らしく明るく元気な発表に、笑顔あふれる学級経営が伺えました。

交流タイムでは、参加者から貴重な感想や意見をいただき、熱気あふれる会となりました。

(副会長〈女性部担当〉竹井久美子)



講師と実践発表者(平成30年度)

### 令和元年度「2月のつどい」

令和2年2月16日(日)13時

福岡リーセントホテル

講話1 内藤朱里先生 カエイインターナショナル  
スクール(ミャンマー)

講話2 秋吉孝則先生 朝倉市立杷木小学校

# 支 会 活 動 報 告

## ブロック活動の活性化

福岡市支会 支会長 中村 親良

本支会は、東、西、南、博多、中央・城南、早良の6ブロックで構成されている。この6ブロックの活動の活性化が本支会の重要課題である。

ここでは、先進的な活動をしている東ブロックの活動の一部を報告することにした。

9回目を迎える東ブロック講演会・懇親会は、平成31年1月27日に行われた。参加者はOB27名、現職13名の合計40名であった。講演会は福岡教育大学教職員大学院特任教授長谷川弘明先生を迎え、演題「福岡教育大学の今」でご講話いただいた。

現在は、教科ではなく初等・中等・特別支援などの枠で一括募集されていること、教育実習は1年生から4年生まで毎年実施されていること等、今の大学の様子がよく理解できた。

その後、参加者一人一人の近況報告を聞きながら懇親を深めるという活動であった。

現場で若手職員の増加に日々対応している身として、母校で質の高い教員養成が行われていることを本当に心強く思った。同じ学舎で学んだつながり、安心感は何ものにもかえがたいと感じた。

また、大学で教職を目指す若者をしっかり学ばせていただきそれを引き受け育てるのが現場にいる先輩の役目だと自分自身の役割を再認識した。



福岡市支会総会

## 「組織拡充に向けた取り組みを」

飯塚支会 支会長 内菌 雅浩

本支会は、旧飯塚地区（10小学校・5中学校）を中心として組織された支会です。

主な活動として、毎年6月に支会総会・研修会を開き、支会活動報告や会員相互研修を行っています。

特に、研修会においては従前、退職先輩からの講話を頂いていましたが、近年では青年部設立に伴って、青年部員による実践報告という活動の場としております。しかし、先輩会員の方々の高齢化や新規会員の加入も進まず、支会総会・研修会への参加者も固定化しつつあり、組織拡充が急務であります。

現職会員21名・退職会員20名の41名で支会運営をしておりますが、大半が小学校関係であり、青年部員数・女性会員の参加も少ない現実があります。

平成18年の市町村合併により、旧嘉穂郡の穎田町・庄内町・穂波町・筑穂町が飯塚市となりましたが、実際は飯塚支会と嘉穂支会の二重籍を有した会員も現存しています。人事交流を含めてそれぞれの支会の構成や運営に大きな支障が生まれていることから、各支会の共通した課題として協議を進めていく必要性が求められています。

## 「先輩の実践に学ぶ」から

### 現役教師の実践交流へ

直方支会 支会長 與古光 宏

本支会役員会では、主に研修会等の企画を行います。そこでは、先輩から過去の武勇伝、学級経営の意図、管理職としての理念等の話を伺うことがあります。その話をきっかけに「先輩教師の実践に学ぶ」という視点での研修ができました。登壇いただいた先輩の方々により、形だけの教育活動に満足しがちな若年教師に大きなインパクトを与えることができたと感じています。それをきっかけにして現在では「自らの実践をその先輩方にとどける」ことをテーマにして若年教師が実践発表を行っています。さらに中堅教員が指導助言を担い実践の課題や価値づけをしています。これは、「城山会が直方の教育を担うという意識を育てたい」という先輩の気持ちを反映しているものです。

これからも城山会だからできる活動を直方で展開したいものです。



経過4年目の教員の実践発表の様子



## 青年部の取り組み

### 北九州市の青年部の発展のために

北九州市支会 桑園 正憲 H16卒

北九州市支会は、平成27年度から青年部の活動が始まりました。若い先生方の指導力の向上や識見を広めることを目的とし、研修会等を開催しています。

北九州市には、小学校132校、中学校62校の学校があります。規模が大きいだけに、集まる際の必要性を感じなかったり、同級生（同窓生）としての意識が低かったりするという大きな課題が山積しています。そのような中、少ない人数ではありますが研修会を積み重ねてきました。

研修では、「城山会北九州市支会青年部の立ち上げにあたって～明日の教育を担う若い先生方へのメッセージ～」というタイトルで講話をしていただきました。日々の学習の中で教師自身が何を教え、何を考えさせなければいけないのかを「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善という視点で見直し、考えました。次に、「私の人生を変えた海外での生活」というタイトルで、オーストラリアに留学された中学校の先生が、語学学校に通い、すし店でバイトをして語学に磨きをかけ、帰国後は、英語科の授業を受け、社会科から英語科へ転身された話などを聞いたりしています。どの研修も、聞けば身になる内容だと個人的には感じながら、そのよさを周知徹底できず、参加者が増えなかったこともあり、今年度からは、女性部と合同で研修会を行うこととなりました。

今年度の研修としましては、北九州市に本社を構

え、「顧客満足度」が10年連続で1位となっているスターフライヤーのおもてなしセンター長の湧けい子氏を講師に迎え、「スターフライヤーのおもてなし戦略と人財育成」というタイトルで講演をしていただきました。事前期待を知ることであったり、自己裁量で最高・最適を探ることであったりと保護者対応が必要な我々教員にも、必要不可欠な内容でした。

北九州市も全国の自治体と同じように急激な世代交代が進み、どんどん若手の先生方が入ってきています。そんな時こそ、絶対的な人数が多いという強みを生かして、同窓の仲間が集まり、お互いを高め合い研鑽を積むことで、子供たちに少しでも良いものを返していけるような研修などを行っていきたいと思っています。更なる発展のためにも、北九州市内をはじめ、たくさんの諸先輩方のお力をお借りし発展させていきたいと考えています。



北九州市 女性部・青年部合同研修会

### 大川支会の充実を目指して

大川支会 古賀 柳信 H3卒

大川支会では、城山会本部からの青年部の正式な立ち上げ方針を受けて平成29年度から組織・運営について検討を重ねてきました。その結果、昨年度青年部を発足させ、青年部長を支会役員に位置付けて活動を開始することになりました。

大川支会の課題は、小・中学校の会員相互の連携です。大川市には、8小学校、4中学校（令和2年度より2校に統合）の計12校があります。すべての学校に支会会員は在籍していますが、そのうちの2校には青年部の会員（50歳未満）がいません。また、総会後の歓迎会や2月の研修会・懇親会を行っていますが、市内の先生方相互の交流ができていないのが現状です。総会名簿がありますが、同窓生である

ことすら知らない方もいます。

青年部としての活動を充実させていくためにも、OBの先輩方や女性部の先生方ともつながりを強めていくことが優先課題と考えました。そこで、平成30年度から、比較的ゆとりのある夏休みに会員以外の先生方にも声をかけて青年部・女性部拡大情報交換会を行うようにしています。そこでは、いろいろな情報交換が行われ、会員相互のつながりの強化につながっています。他にも、次のことについて先輩方からアドバイスをいただきました。

- 副部長、連絡係を決め、連絡を密にする。
- 支会総会（歓迎会）、研修会・懇親会に参加する。
- 新卒若手会員情報交換会（10月：福岡教育大学）に参加する。
- レクリエーション・懇親会を企画・運営する。

大川支会では、先輩方が機会あるごとに同窓であることの意義について話されます。その話を聞いたたびに、福岡教育大学で、同じ思いをもって学んだことを振り返り、会員としての誇りを確かにしています。今後も益々、新規採用教員が増えて世代交代が進みます。そこで、今後も支会役員との連携を密にして、青年部活動の充実を目指して支会活動を盛り上げたいと考えています。



青年部・女性部拡大情報交換会

# 福岡教育大学の将来を考える②

## ～卒業していく学生の育成・支援に関する期待～

### <趣旨説明・司会 本部副会長 谷 友雄>

「福岡教育大学の将来を考える」は、昨年度に続いて2回目です。本年度は「学生の育成に期待する内容」として、4名の方々から提言を頂きました。城山会会員や学生(院生を含む)に関わる全ての人々が、教職を志す学生に何をサポートすればいいのを見直す機会として企画しています。

### 卒業する教職大学院生への期待と支援のお願い 教職大学院 専攻主任(教授) 森 保之

本学教職大学院も平成21年度に立ち上げ、10年を迎え、令和元年7月27日(土)に10周年記念行事を終えました。開設以来、10年間、県内の小・中・高等学校や教育機関と連携をしながら教育・研究活動を行い、現在207名の修了生を教育界に送り出すことができています。学校現場の若手のホープとして、管理職・スクールリーダーとして活躍している修了生、教育行政の指導主事等で活躍している修了生等、多くの修了生の頑張りをみることであります。教職大学院での学びは、「理論と実践の往還」による深い学びです。どうぞ、大学院で培った深い学びを学校現場に還元して頂き、現場のよきリーダーとなるよう今後もチャレンジあるのみです。また、城山会の先輩方にはよきサポートをして頂くと共に、ご指導を宜しくお願い致します。

### 教職を目指す学生が実務を学べる仕組みづくり 副理事・キャリア支援センター長(教授) 生田 淳一

教師としての実践的な資質能力を育成するべく、カリキュラム・授業改善を進めています。「教育総合インターンシップ実習(4年次後期)」も本格的にスタートしています。学生のボランティア実施率も100%に迫っています。私自身はというと、これまで「理論と実践の架け橋に」と教員養成に努めてきましたが、まだ道半ばです。その中で、一番手応えを感じていることは、ボランティア先や実習先で先輩(特に同窓生)から、学生が多くを学んでくることです。「先輩の語り」は、何よりも学生の成長の糧となっています。同窓生からは「学生に自分の実践を話すことは、自分自身の実践の振り返り(リフレクション)にもなり、本当にありがたい」と声が返ってきます。そんな学び続ける先輩と学生の出会いを紡いでいくような、より実践的な授業を充実させたいと願っています。本学を卒業する学生には先輩たちのように学び続ける教師として巣立って行って欲しいと考えます。

### 令和2年度 就職率90%超への完全達成 就職支援アドバイザー(特命教授) 羽原 哲男

本学の目標は、「豊かな和を創造し、力のある教員を育てる。」ことです。そこで具体的な目標として、教員就職率(講師を含む)90%を掲げています。この目標達成に向けて、入学試験、教育組織、カリキュラム、そして学生への指導体制の改革が実施された。令和元年度に教員採用試験にチャレンジした4年生は、「学部改組後の一期生」です。採用試験の結果は、大学全体で現役合格380名です。これにより本学が目指す教員就職率90%に向けての指導に一定の手応えを感じることができました。しかし、対応した学生の資質・能力を考えるとまだまだ伸びる余地があります。学生の卒業時には、教育に対する知性と技能を豊かに磨かせ、教育への見方や考え方を深めさせ、より良い教育を創造できる教師にしたいと考えます。学内で、そのような資質や能力が形成できるような雰囲気や、全教職員が一致協力して形成することが大切であろうと考えています。

### 即戦力として求められている若年教師

福岡県小学校長会 会長 重松 宏明

学校現場ではここ数年で急激に若い先生が増加し、若い先生の学校における比率が高まっています。反面、教員の志願者数は減少し、教員が足りていない状況もあります。まずは、教師の魅力ややりがいを大学で伝えて頂き、教師になりたいといった熱い気持ちをもった学生を育てて欲しいと思います。

そして、どの学校も、若い先生方に期待しているものは、学級経営ができ、授業力もある即戦力となる先生です。学校に入れば、初任者だからといった甘えは通じません。保護者からは、他の先生方と同様に質の高い授業の実施と、親身になって子どもへ関わる人間性が求められます。対人関係能力やコミュニケーション能力は不可欠です。アクティブラーニング、協働学習、ボランティア活動等を大事に、日々の学びで教育実践力を積み上げて欲しいと思います。



特集

## 第二の人生を生き生きと

## 子らの笑顔にふれる文庫活動

築上・豊前支会 S48卒 土屋(村山) 富子

平成23年、退職した年の7月「土屋ミニ子ども図書館『とんからりん文庫』」(地域文庫)を開設した。教職生活38年間のうち24年間、図書館教育・読書活動に関わった。次第に「歩いて行けるところに図書館があったらいいな」という願いがふくらみ、なんとでも実現したくなった。

50㎡の小さな図書館だが、3つの機能がある。一つは勿論図書館コーナー。絵本を中心に本が約3,500冊。半畳ほどの秘密のスペースもある。二つ目は美術館コーナー。白い壁面にピクチャーレールがあり、地域の方の作品を展示できる。城山会の先輩の写真展をさせてもらったこともある。三つ目は、ベランダの広場コーナー。ミニミニ書棚がある。オセロや将棋セット、パズルも使える。6人掛けの大きな木製のテーブルとイスでゆっくり過ごせる。私の不在時でも自由に過ごしてよいことにしている。

また、この文庫を拠点に、京築地域の読書ボランティアの連携を図っている。読書ボランティアの会「とんからりん文庫」、地域の民話伝承活動の「豊前語り部の会」の事務局としての資料も保存している。

平成29年4月「子どもの読書活動優秀実践団体(個人)」において文部科学大臣表彰(個人)を受けた。全国で個人表彰は5名。在職中から図書館教育に関わってきたことと読書活動を長年行ってきたこと、文庫を設立し読書活動を続けていることが表彰内容。今までの活動を評価してくださったことに感謝し、快くお受けすることにした。お礼の気持ちを込めて自費出版の「とんからりん日記2」を配布。リストを作成すると300名を超えた。改めて多くの方のおかげで活動ができていのだと実感した。

文庫も今年で9周年を迎えた。これからも「とんからりんのおばちゃん」として地道に活動を続け、子ども達の笑顔にふれていたいと願っている。



とんからりん文庫 全景

## 長崎街道を歩く

遠賀支会 S47卒 町田 秀男

かつて車で通った道が新鮮に映る。いつも前ばかりを見て進んでいた通りの風景が、全く違って見える。一步一步ゆっくりと周りを見ながら歩いていると、こんなにも美しい景色と豊かで歴史にあふれる町並みがあったのだ、ということは今更ながら感じる。

小倉から長崎まで続く、長崎街道と呼ばれた道を、今私は歩いている。古希近い年まで働いていた私は、第二の人生を大いに楽しもうと思っていた。そんなとき、先輩から街道歩きをしないかとの誘いがあった。退職後、司馬遼太郎の作品を読むことの多かった私にとって、氏が行ったように歴史的遺物を訪ね、その時代を肌で感じ思索をすることは、非常に魅力的に感じられた。実際に歩いてみると、街道に関する遺物はもちろん、掲示物も多く、一瞬、過去にいざなわれる気持ちになる。坂本龍馬や日本初上陸の象もこの街道を歩いており、多くの地域にそのことが記してある。龍馬と一緒に歩いていることをイメージすれば、それだけで楽しい。佐賀や長崎に入ると声をかけてくれる人も多く、ネットではわからない本来の道を教えてくれる人もいて、長崎街道が地域で大事にされていることを感じる。また下校中の小学生との会話と屈託のない表情も印象に残る。そして何よりの楽しみは、仲間とたわいのない話をしながら毎回20キロほどの道のりを歩き、ときには各地にある温泉に入り疲れを癒すこと。人生の至福を感じる瞬間である。

この旅もあと40キロほどを残すのみであり、次は唐津街道か田原坂からの西郷隆盛の敗走路を歩こうと話し合っている。リュックを背負って20キロを歩こうとすれば、普段からの軽い運動も欠かせない。紀行文でもと思うが、まずは健康を基盤に第二の人生を気楽に歩みたいと思う。



武雄温泉街を歩く

## シャンソンを友に生きる

久留米支会 S30卒 中野(熊懐)成子

「歌は過去の暮らしと共に有り、歌は今の私の暮らしの中に生きる。そして、歌は未来の中に有る。」

冒頭の言葉は、退職して25年を経た今の偽りのない心境である。この歌の世界に踏み込んだ理由は、思いがけない「運命の師」との出会いにある。この師によって私の人生は大きく変化した。もともと歌の好きな私は、一も二もなくシャンソンを学ぶため本場パリへ数回師に同行し、シャンソンは人生の根底にふれることができる歌だということを知った。

そこで、久留米にもこの歌の持つ偉大な力を広げようと立ち上げたのが、「La chanson・くるめ」という会である。会員12名、平均年齢75歳、所謂年を忘れ、日々を楽しく生きるとの思いを持った同志の会である。月2回のレッスン日となると、何はさておきいそいそと出かける。その要因の一つは、歌う中で移ろい過ぎる時間が豊かなものになることを実感できるからである。もう一つは、指導者<ピアニスト>にある。孫ほどの年齢の差があるが、彼の天性の音感をもとに心と指で奏でる美しい音色に心奪われる至福の時間を過ごせるからである。

このようにして、個々が積み上げてきた成果を発表する場として年1回無料コンサートを開き、今年は第10回を終えたばかりである。年を重ねるごとに気力、体力、持続力等が失われていく中、シミ、シラガ、シワ、ボケなどが増えた体を裾までのドレスで隠し、舞台上最高の自分を演じる。その姿は300名位の聴衆にキラキラと輝いて見え、「元気をもらった。私がんばろう。」という気を駆り立てるそうだ。

この歌い手と聞き手の相乗効果は、勿論歌の力によるものである。夢を持ち、挑戦していくのに年齢制限はない。これからも自分らしく、終わりは知らない人生の道りを歌の力を友として、日々を楽しみながら生きていきたい。



シャンソンの定期発表会での挨拶

## ラグビーと共に

高校支会 S47卒 城戸 英敏

2015年9月20日、英国ブライトンのコミュニティースタジアムで、RWC（ラグビーワールドカップ）日本対南アフリカの試合を観戦した。日本が劇的勝利を収め約3万人の大観衆がRWC史上最大のアップセットに酔いしれた。あれから4年、2019RWCが9月20日から日本で開催される。開催都市の受け入れ態勢も着実に進み、すばらしい大会になるだろうと期待している。

10年前に退職した後、私立高校や大学に勤めながら、ラグビー協会のお手伝いをしている。

昨年は4月に香港セブンズ国際大会を視察してRWC2019福岡大会のPRに努め、7月には九州高校代表チームのロシア遠征に団長として同行し、クラスノヤルスクに滞在した。2019年にユニバシアード大会が行われるこの町は、町全体が建設ラッシュで活気に溢れていた。広大なエニセイ川の水力発電所、オリンピック選手養成所、バブローウイロック自然公園なども訪れた。町全体で歓迎していただき、TVの取材や新聞など地元のメディアでも大きく取り上げられ、ラグビーを通して国際交流の一翼を担えたと感じた。

今年もRWC福岡開催に関わりながら、レガシーづくりの一環として、数年前から小学校にも出向いてタグラグビーの指導をした。さらに、福岡県をアジアラグビー普及の拠点とするため、中学生を対象としたX Rugby（初歩的段階のラグビー）を通じたアジアラグビーフェスタの実施準備に追われている。

昨年はアジア9カ国の海外選手と九州各県からの中学生が一堂に会し、交流イベントやゲームを通して友情を育むことができた。

ラグビーとの出会いが、私の人生を彩ってくれた。その恩返しとして、次世代を担う子供達の育成に携わっていきたいと思う日々である。

[2019年8月]



ロシアでの試合後



## 北の大地に生きる

北海道在住 S41卒 丸山 照子

昭和44年3年半の教員生活に終止符を打ち、「一からの酪農」を夢見て渡道し、酪農実習を始めた。

昭和46年大阪から来て酪農を始めていた夫と結婚し「共に働き、遊び、学びながら」をモットーに4人の子供を育てた。

平成元年、末娘が通う美利河（ぴりか）小学校が在校児童1名となり、廃校の危機に陥った。翌年、全国各地から山村留学生を受け入れ学校を存続させることができた。我家も毎年1～4名の留学生を預かったが、子供たちは自然の中で伸び伸びと過ごした。

平成15年、還暦を迎える年の6月、留学生の保護者との間でトラブルがあり、留学生を預かるのを断念することになった。心の傷を癒すため、本を読んだり、音楽を聴いたりした。また、高校の時から念願だった油絵を描き始めた。そして、「ログハウスを造る」という夢を持ち、「畑にあるカラマツの木を100本切る」という目標を立てた。

まず夫にチェーンソーで木の切り方を教わった。最初は、「私にこんな大きな木が切れるだろうか？」という不安もあったが、「今の自分にはこれしかない」と言い聞かせ、毎日くたくたになるまで木を切った。近くに住む開拓者の方が建てられた家を譲り受け、夫から半割にしてもらった木材で、「ログハウス風」の家へと変身させることができた。いつの間にか心も軽くなっていた。

平成25年、23年間で184名の山村留学生を受け入れたこの制度も里親の高齢化により廃止され、学校も閉校となった。今、成長した子供たちが結婚したことや子供ができたことなどを里親への報告にやってくる。私は山村留学生を預かるという貴重な経験に感謝している。そして75歳になった今、息子の酪農を手伝い、4人の孫の世話をしながら静かに老いを見つめている。



現在の北海道の住居

## ママさんコーラスとともに

筑紫支会 S48卒 廣 修治

私は福教大時代、混声合唱団に入って活動していました。マネージャーや部長を経験する中、いつの間にか私は合唱の魅力に取り憑かれて音楽科教棟に入り浸るようになっていました。そして、音楽科の学生に頼んでは、ピアノが置いてある個室で発声練習や古典イタリア歌曲やシューベルトなどの歌曲にも取り組むようになっていました。

さて、人生とは不思議なものです。それが縁となったのでしょうか。私は教職に就いた翌年（当時23歳）、保護者からの依頼で地域の合唱指導（ママさんコーラス）を始めることになりました。以来、現職そして退職後もずっと指導を続けいつの間にか今年で46年目（現在69歳）を迎えています。

その間、合唱コンクールで金賞、理事長賞を頂き福岡地区代表で九州大会に出場したり、テレビ番組に出演させて頂いたり、大野城市から文化功労賞を頂いたりと輝かしい出来事もありました。しかし、色々な事情で退部された方、亡くなられた方もあり、悲喜こもごもの46年間でした。当初メンバーのほとんどが30代前半の方々でしたが、世の中同様今や部員も高齢化が進み、昔のように透明感、張りのある歌声が出し辛くなってきています。しかし、それでも皆さん決して向上心を忘れず、伴奏者を含め励まし合い、支え合いながら現在も歌声づくりに励んでいます。ほんとうに頭が下がります。私は今まさに感謝とともに長年の同志のような気持ちを抱きながら活動を続けさせていただいています。

思うに私のこれまでの人生は、教職の道と合唱の道とシンクロしてきたような気がしています。そして、退職後ややもすると孤独に陥りがちな私にとって、部員の方々の歌声、そして笑顔や笑い声、励ましの言葉は、かけがえのない宝物です。今後とも皆さんと共に頑張っていきたいと思っています。



福岡おかあさんコーラス交流会

## 油絵に魅せられて

八女支会 S47卒 吉岡 幸夫

10年前、退職して子や孫に「何を残そうか」と考えました。そこで思い付いたのが絵です。それというのも、私は高校・大学時代に絵の制作活動に力を注いできたのですが不完全燃焼に終わっていた想いが残っていたからです。

そこで、一念発起して残り少ない人生を再び絵画制作に励み、子や孫に残そうと考え、油絵を描くことに挑戦しました。初めの2年間は、身近にある果物、花などを題材にして、画面構成、油絵の具の特性と表現方法を専門書で調べ、学び、試しながら描きました。阿蘇や久住の山々も描きましたが、自分でも納得いかない絵でした。

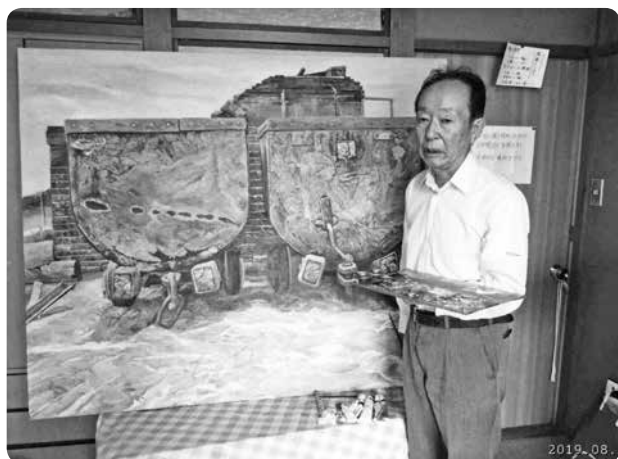
3年目、絵の先輩でもあり、城山会の先輩でもある太田黒立春先生から美術団体「示現会全国展」に出品してみないかと誘われました。

日本、台湾、韓国から1300点の応募、そのうち20数点が入賞です。示現会全国展に入選しだして3年目の題材は、平原に古株が横たわっている絵2枚（「凜」・「寄り添い」）を出品しました。「寄り添い」が入賞し、東京にある国立新美術館での表彰式に参加しました。感激して家路を急いだ思い出がいまも鮮やかに心に残っています。

その後の数年は、古株、廃船、そして今は宮原抗に残っている「炭車」を描いています。

描くことを通して、多くの方々とのおふれ合いが増えました。お陰様で私の財産になりました。地元の八女の方々にも私の絵を見ていただけるよう「八女総合美術展」にも出品しています。

今でも、遠近感が出ない、色調が悪い、生命が感じられないなどの課題が多々ありますが、工夫、格闘している私です。



油絵作品の前で

## 継続してきた小・中学生将棋大会

糸島支会 S46卒 田中 正敏

現役の頃、教職員の将棋仲間と「将棋文化をもっと普及させたいね」、「プロ棋士をよんでの子ども将棋大会はどうだろう」といった話で盛り上がりました。このことがきっかけで、1997年の夏休みに「第1回糸島地区小・中学生将棋大会」の開催を実現させることができました。お招きしたのは、初代竜王の島朗八段です。また、5年後には南風校区公民館で月1回の小・中学生将棋教室も始めることができました。2004年の国民文化祭では、前原市が会場となり、将棋部門を担当し、森内名人他数名のプロ棋士に出席頂きました。

例年50人程の小中学生の参加がありますが、4年後に島八段の計らいで羽生四冠をお招きした時には、県内外から120人を超す参加がありました。夜の懇親会で、羽生さんと盃を交わしましたが、プロの勝負師と思えない爽やかな人柄が特に印象に残っています。

退職して11年、大会も今年で23年目を迎えます。今回は現在勝率トップの大橋貴洸五段を招きました。プロ棋士に教わる時の子どもたちの真剣なまなざしや毎年の参加を楽しみにしている声が励みになっています。

将棋のよさの一つは礼節です。「お願いします」で始まり、敗者の「負けました」で終了します。

二つ目は、盤面を読み、先の展開を予想していく上で磨かれる思考力、反省会での指し手を吟味し合って育つ分析力です。

開催に際しては、事業所を巡っての協力金集め、講師招聘、協力者への依頼、賞品準備などの大変さもあり、今後は九大将棋部との連携も視野に自己の体調とも相談しながら、あと少し頑張りたいと思っています。



大橋貴光五段との多面指し



# わたしの教育実践

## 一人一人の子供が輝く学校をめざして



「おはようございます。」今日も子供たちの元気な朝の挨拶の音が響きわたります。

東郷小学校はJR東郷駅より徒歩約7分の場所に位置し、全校児童数は654名の学校です。近隣の南郷小学校、中央中学校と共に3校で、宗像の郷「中央学園」として小中一貫教育を推進しています。小中一貫した学園の教育目標を「目標を持ち、自ら考え行動し、ねばり強くやり通す、心豊かで健康な子供の育成」とし、特に本年度の重点目標は「豊かな心の育成」としています。重点目標を達成するため、道徳の学習では「中心発問、補助発問をどのように構成するか」の研究を進めています。もちろん道徳の学習ばかりではありません。特別活動を中心に、子供たちがそれぞれの良さを生かして、自発的・自治的な活動を行う中で互いの良さを認め、励まし合う活動を通して「豊かな心」を育成しています。

特に東郷小学校では、毎年夏に地域の方々が熱い思いを込めて行う「田熊山笠」で、1年生から6年生までそれぞれの役割を明確にして参加しています。地域の方々と一体となって活動に取り組む中で、児童相互がお互いの良さを見つけるとともに、

宗像市立東郷小学校 校長 高木陽一郎 H2卒

地域の大人の方々の山笠にかける思いを学ぶことを通して、「互いを認め合う心」「地域を愛する心」を培っています。様々な学級での活動、校内行事、地域との合同行事、そして道徳の学習を通して、自分の良さを実感するようになった子供たちは、これまで以上に集中して学習に取り組むことができるようになっていきます。

今後も職員が一丸となり、様々な活動を通して、東郷小学校の子供たち一人一人の良さが輝く学校づくりを行っていきたくと考えています。



田熊山笠

## 地域の特色を活かした総合的な学習の時間



現在勤務している芦屋町立芦屋東小学校は全校児童数191名で私の担任する4年生以外は1学年1学級の小規模校です。遊ぶのが大好きで純粋・素直な児童ばかりで、私自身毎日楽しく充実した日々を送っています。

私が担任する4年2組の児童は遊びに熱心に取り組んでおり、特に一生懸命取り組んでいる学習があります。それは、総合的な学習の時間「もっと知ろう！わたしたちの遠賀川」です。芦屋東小学校の北側を海に向けて流れていく遠賀川は、児童にとって身近な存在です。しかし、この遠賀川のことを児童は詳しくは知りませんでした。遠賀川について知っていることを聞いてみると、海につながる川であること、生き物がたくさん住んでいること等の抽象的なことしか返ってきませんでした。そこで、身近な遠賀川のことをもっと知ろうということで、この学習がスタートしました。

まず、遠賀川河川事務所に行き、川と海をつなぐ河口堰を見たり、国土交通省の方から遠賀川についてお話をうかがったりしました。すると、川の様子

芦屋町立芦屋東小学校 教諭 高橋 岳史 H24卒

や生きものについて、抽象的だった児童の考えがつながりはじめ、少しずつ明確になってきました。

次に、遠賀川の上流の水と河口堰付近の水を水質調査したり、河口付近の生き物を捕まえたりして、実際の様子を確かめていきました。このように、体験を伴うと理解が進むので、児童は活き活きと学習に取り組み、自然と「なぜ?」「どうして?」と問いをもつ姿が見られるようになりました。これから児童は、自分の問いの解決に向け3つのグループに分かれて探求的な学習を進めていきます。まだ学習の途中ですが、発表会が今から楽しみです。

自ら問いをもった児童は、楽しそうに一生懸命学習に向かっています。

児童が「学びたい」「学んでよかった」と思える姿を創造できるよう、私も児童と共に学んでいきたいです。



生きもの調査

会員に  
聞く

## 私学経営者として生きる ～人生を成長させてくれた出会いに感謝～



学校法人久留米学園・久留米学園高等学校の理事長兼校長である熊谷智彦(くまがい ともひこ)氏は、本学のOB(中学課程社会科-昭和55年3月卒業(旧姓 古賀))で、今年64歳。公立高校に20年間勤めた後、父の後を継いで私学経営者としての道を歩み今年10年目を迎えられる。

当校の校長室で氏の足跡や抱負について伺った。

**Q1 公立高校の教員をやめて、私立高校の運営に身を乗りだすことになった時の気持ちは？**

祖父の創立した学校で、福教大入学時よりいづれ経営に携わることになると覚悟は決めていました。勿論、本校赴任までには不安もありましたが、男女共学に移行した頃で、担任し、校務分掌にも励み、公立高校と何ら変わらぬ勤務でした。

**Q2 私立高校を運営していく上で、公立高校での教職経験はどのように生きていますか？**

本校赴任当時は、総合学科をスタートさせた頃で、公立高校での経験と知識が大いに役立ちました。特に選択科目が多くなり、時間割の組み方や時間割変更、出欠管理が課題となり、その土台をつくる上で大変役立ちました。また、公立高校勤務時代に面識を得た方とは今も教育情勢について情報交換をさせて頂くことがあります。部活動顧問を通して出会った中学校の先生方も、今は管理職として本校を応援して頂いています。

**Q3 公立と私立の学校の違いはどんなところにありますか？また、自校の特色やビジョンは？**

これまで圧倒的に優位にあった地方での公立高校が、少子化の中でもがいているように見えます。

一方都市部では、中高一貫の私立高校の進学実績が上がり、部活動でも実績をあげています。

本校は、大学進学実績を誇る学校ではありませんが、資格・検定の取得を目指す実学(美容・調理・情報)に力を入れ、公務員試験合格に特化したカリキュラムをアピールしています。また、強化している部活動で強豪校に一泡吹かせ勝利することもあり、生徒一人一人の努力と「久留米学園に入学してよかった」と思える教育を目指しています。また、経営トップとしては情報収集と職員への発信、そして、「旧態依然」からの脱皮を心掛けています。

**Q4 自分が高校生だった頃と比べ、今の高校生にはどのような違いが見られますか？**

モノと情報が豊富でほしいものが手に入りやすく、核家族社会により家族間の関係が薄れる環境の中、孤独感を抱き、打たれ弱い高校生が多く見られます。しかし、高校生は、いつの時代も世の中の経済に振り回され、進路や友人、異性での悩みがあることに変わりはありません。ただ、今の生徒は、育った教育環境の影響が強く、しっかりとした考えをもてる子ともてない子の差を生み出していると思います。

**Q5 今の高校生に身に付けさせたい大切な力とはどのようなものでしょうか。**

マナーと言葉遣いです。これは若者だけではないですが、守れている人と守れていない人の差が目につきます。また、スマホ社会になり高校生だけでなく社会人も、隣にいる友との会話よりスマホの画面の一点を見つめています。

笑顔をもって、話しを弾ませるコミュニケーション力で相手の心の機微に気付ける人になってほしいですね。

**Q6 福岡教育大学時代は、自分の人生にとってどのような意味をもっていますか。**

大学では、専門教科より部活<剣道部>に時間を割いた4年間でした。他の競技の顧問を任されても「一緒に身体を動かそう」と、自然と生徒の中に身を投じることができました。

また、剣道部OBはじめ教育大出身の方々との出会いは、教育現場にいる私の人生を好転させてきたと感じています。

(聞き手 広報部 上野 幹久)



生徒たちの調理実習<久留米学園高等学校>





# 大学時代の思い出

昭和48年  
卒業



## 別大マラソン

宮崎県支部

特別教科保健体育科 木村 誠

大学時代の思い出といえば、4年間所属していた陸上競技部のことが多い。学内での行動は、特体の陸上競技部員と一緒にすることが多かった。

同学年には、中長距離走をしていたのは二人しかおらず、小体のF君と私だけだった。3・4年生時には、二人で別大マラソンに参加した。今とは違い、別府観光港をスタート・ゴールとし、大分市を折り返すコースであったが、一番きつくなるのが帰りの高崎山付近である。2月第1日曜日開催であったので、寒い時期である。3年生時の大会は、小雨が降っており、30kmを過ぎるところから、まったく体が動かず、やっと3時間以内でのゴールだった。4年生時は、晴天に恵まれ、前年のタイムを15分以上縮めた。二人の勝負は、1勝1敗であった。しかし、残念ながらF君は、60歳代半ばで帰らぬ人となったので、もう一緒に走ることはできなくなってしまった。

## 仲間・友人への気持ちに感謝！

八女支会

中学校技術科 服部 孝人

入学当初は、意見が食い違い、まとまりが全くなかった。そこで、昼休みに運動を一緒に行うことと一緒に飲み交わす機会を設け、団結力を深め、思いやる心が育ってきた。卒業まで仲間との信頼関係、切磋琢磨していく友情、思いやる行為、労り合う心が育ち、友人に感謝の気持ちで一杯だ。

5週間の教育実習が苦しくて苦しくて、本気で課題に取り組む必要性を身をもって痛感した。そこで、解決へ向けて真剣に取り組むと共に、子供理解、指導・援助に励んだ。講義・演習で受講生との実践交流、解決策を求めて特別支援教育（心理学など）に出向き体験的な実践に打ち込んだ。仲間からの叱咤激励、挑戦する大切さや勇気、支えてもらえる安心感などが研鑽をより一層深めた。

古希を迎えて、今だ中学生と交流する授業に努め、生徒から若さと情熱をもらい続けている。

## 出逢いが人を創り、感動が人を動かす

久留米支会

中学校保健体育科 黒岩 壽臣

昭和44年は、東京大学の入試が行われず、「受験生ブルース」のような厳しい受験戦争時代でした。まだ、学生運動が盛んで、私たちサッカー部よりもハードなデモ行進が行われていました。学内は、べたべた貼られたビラとのび放題の草で、汚いイメージです。1年の2月に、尊敬する4年の先輩が事故で亡くなられ、ショックでした。その後は、サッカー部活動に明け暮れ、本校主管九州インカレ前の一ヵ月間の合宿はハードでした。下宿で、夜は時間無制限で多くの先輩や友と語り明かした体験は、人生の図書館的存在です。

今でも「出逢いが人を創り、感動が人を動かす」と思います。人を育てる教師がまずより人間力を高めるため、大学の4年間は、人間性を高めるため、多様な価値観を受容できるように社会経験を重ねることが必要だと痛感し、「教育維新塾」を主宰しています。

## 教育大がとりもつ縁

築上・豊前支会

小学校社会科 本松 優一

大学での思い出は数々あるが、今でもその縁が続いていることが3つある。部活の鍛錬として波津の海岸まで歩いて往復した時のことである。寒さと空腹に震えながら深夜遅くの帰還であったが学校近くの喫茶店の好意で全員に出されたオムライスの美味しかったこと。今でも毎年車で片道2時間半かけて波津の海岸に行き海水浴を楽しんでいる。また大学の入学説明会で広い会場のたまたま隣に座ったS君。聞けば同じ小社ということで親近感を覚えその後の大学生活は何かと親密さが続いた。卒業を機に彼は北九州、私は福岡市に就職し一時は音信不通の状態だった。それが十数年後、それぞれの人事異動により同じ京築管内に勤めることになったのである。今でも時々二人で飲む機会を設けているが「君とはくされ縁だね」とよく笑う。もう一つ、最大の縁は家内である。

# 教師をめざして

## 視覚特別支援教育の教師を 目指して

特別支援教育教員養成課程 2年 瀬戸勇次郎



私が視覚特別支援学校の教員になりたいと思い始めたのは、自分自身がこれまで経験してきたことや生活する中で学んできたことを視覚障害のある子どもたちに伝えることが、私ができることのひとつではないかと考えるようになって

たからです。

私は視覚に障害がありますが、小学校から高校までずっと普通校に通ってきました。授業では一番前の席に座ったり、プリントを拡大印刷してもらったりなど、学校や先生方からさまざまな配慮をしていただくことで、晴眼の生徒と同じ授業を受けることができました。

現在、大学でも資料のデータ化や拡大などの配慮をいただいて授業を受けていました。こうした経験を通して、自分のできること、できないこと、手助

けがあればできることの判断を自分で下し、周囲に伝えることの大切さを学びました。また、高校3年生の夏に高校の柔道部を引退すると同時に転向した視覚障害者柔道で、パラリンピックを目指すようになり、その試合や合宿などで、いろいろな症状の視覚障害のある選手たちと交流することで、障害の多様性やそれに伴うニーズの多様性さらにそれらに対応するための手段などについて学ぶことができました。選手やコーチの中には、視覚特別支援学校に勤務している人もいて、学校の様子や生徒との関わり方についても多くの話を聞くことができました。さらに、海外遠征に行った際にも、遠征先の国の様子を見たり、他の国の選手たちとの交流を通して、海外での障害のとらえ方、障害者や障害者教育のあり方についても知ることができました。

このような自らの経験や、大学の授業で得た知識を最大限にいかして、障害のある子どもたちが自分自身の障害と向き合い、自身の目標に向かって前進できるように導くことができる教師になりたいと思います。そのためには、必要な知識や経験を蓄えるだけでなく、私自身がパラリンピックという目標に向かって全力で取り組みたいです。

## 部活動を教職に活かしたい

中等教育教員養成課程 保健体育専攻 2年 大迫 晴香



私は、本学に入学し、部活動を通して様々な経験をさせていただいています。私は中学生のころから陸上競技部に所属し、日々練習に励んでいました。中学・高校の部活動では、競技力向上、良い成績を残すことを目標にし、無我夢中に練習に打ち込みました。

本学の陸上競技部では、中学・高校の部活動では学ぶことができなかったことを多く学ぶことができました。本学の陸上部は、学生が主体となって練習・運営などを行い、活動しています。各々の目標を達成するために日々チームメイトと競い合いながら楽しく練習しています。練習をする中で、良いところはもちろん、悪い所もお互いに見合うことで、観察力を高めあい、また、悪いところを改善するために、

教えあうこともあります。例えば、練習をしている時に、あるチームメイトの走りを見てみると、いつもよりフォームの動きが悪く、調子が悪いように見えました。そこで理由を聞いてみると、足が痛いのに無理して走っていると言います。そこで動きが悪いことを指摘して、無理をしないようにアドバイスしました。

このように、部活動を通して周囲を見る観察眼や、将来教員になった時に、役に立つことがたくさん学べます。

部活動を通して、これからは競技者としての視点だけでなく、教育者としての視点を持ちながら、生徒に寄り添えるような教師になりたいです。





# 教員採用試験状況及び就職状況について

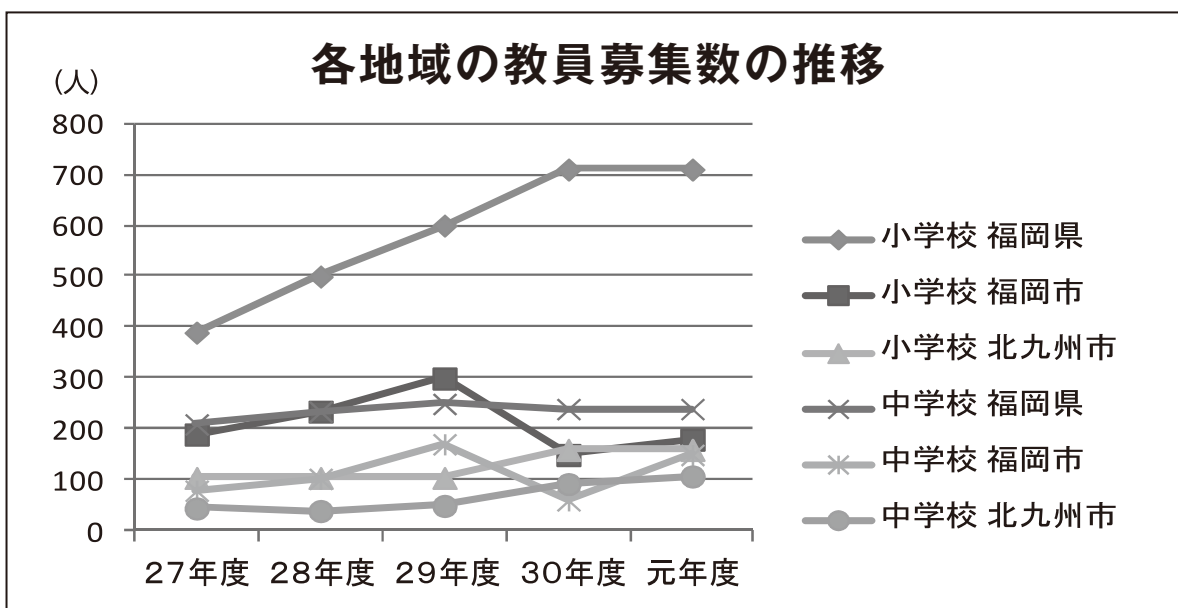
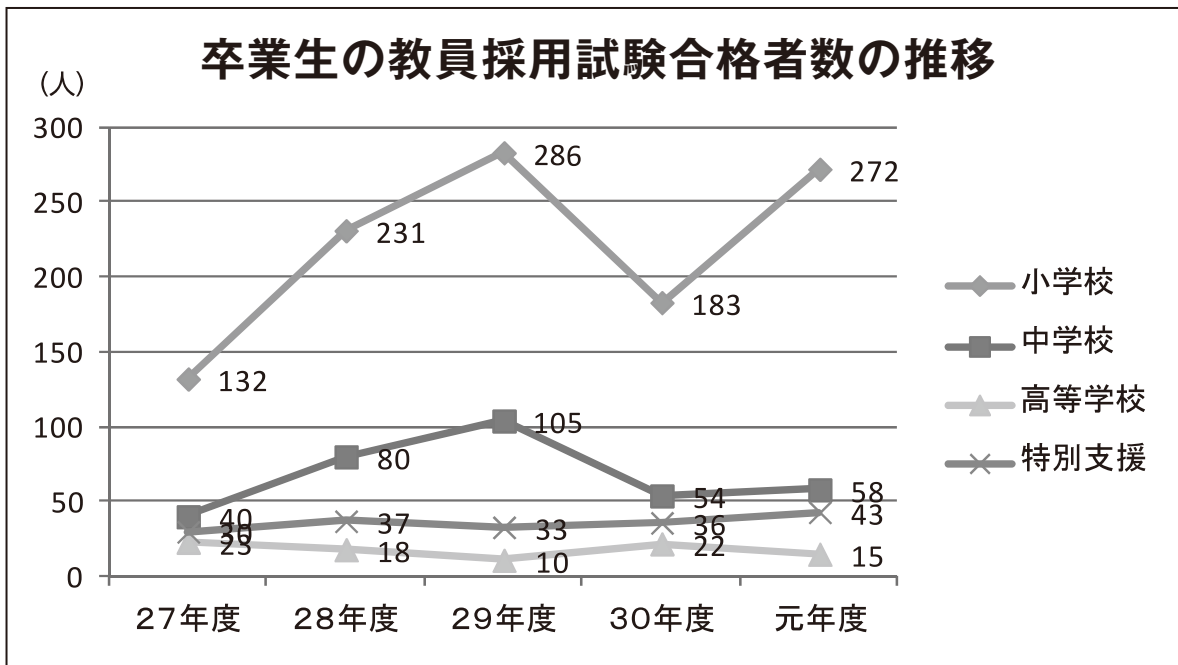
福岡教育大学 キャリア支援センター

## 1. 本学現役学生の教員採用試験の状況

令和元年度の全国の自治体による「令和2年度教員採用候補者選考試験」の1次試験は6月下旬に始まり、最終試験は8月初旬から9月下旬にかけて実施されました。結果発表は11月の中旬迄に行われました。

下記のグラフは過去5年間の本学現役学生の教員採用試験合格者数です。数値は、延べ人数になっています。本年度の受験者の実数は597名で、最終合格者数は実数380名（延べ388名）となり、昨年度より大幅に増加しました。

教員募集数は、昨年度と比較すると全区域で横ばいか、少し増加しています。



### 2. 本年度の福岡県内教員採用試験の状況

本年度も福岡県、福岡市、北九州市の試験日は同日で、福岡県、北九州市と福岡市の併願はできませんでした。

福岡県、福岡市、北九州市の実合格者数は266名（昨年度は218名）でした。合格者数では、福岡県の小学校が増加しました。合格率では、福岡県の中学校、福岡市の小学校、中学校、特別支援学校が向上しました。

本年度の結果を踏まえながら、キャリア支援センターでは、本学学生の希望の進路実現に向けて、就職支援活動の充実を図ります。

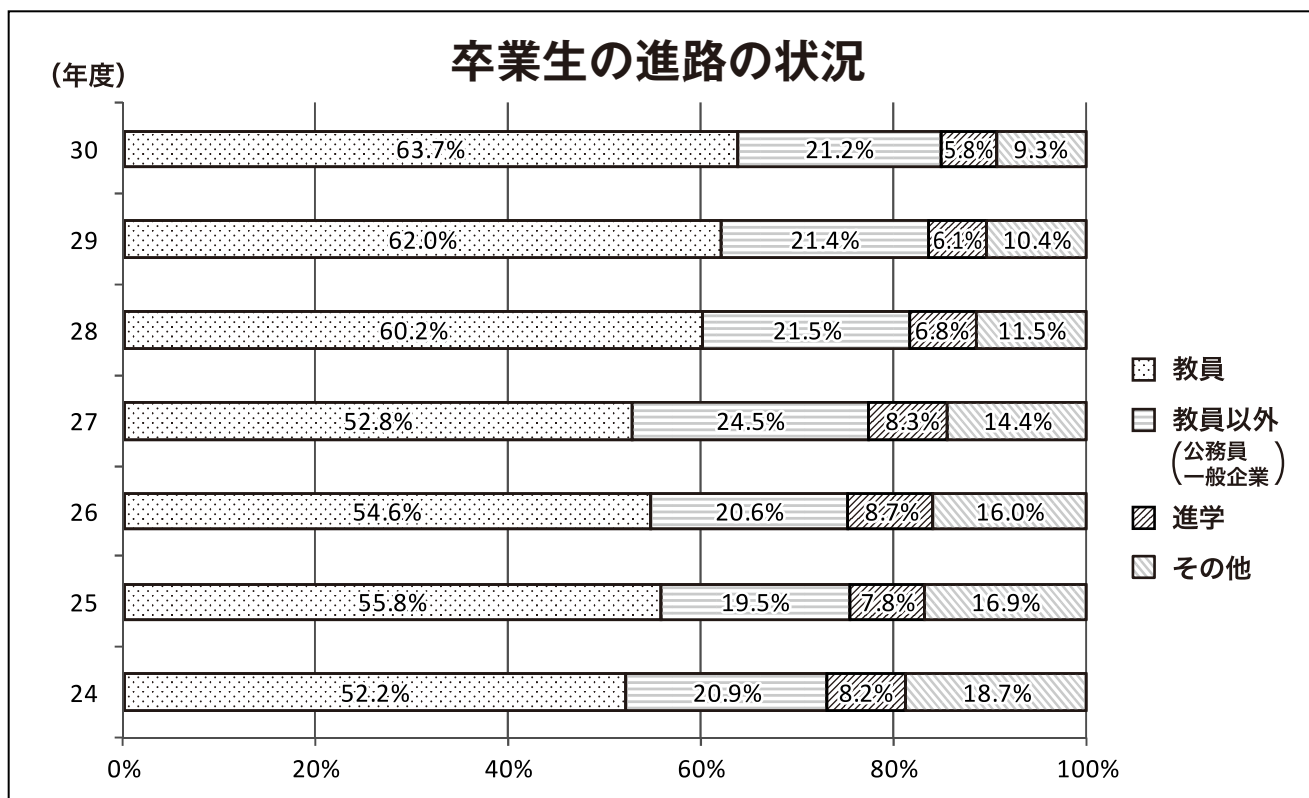
過去5年間の本学現役生の福岡県内の合格状況（令和元年度は令和元年11月15日現在）

		小学校			中学校			高等学校			特別支援学校		
		募集数	合格者数	合格率	募集数	合格者数	合格率	募集数	合格者数	合格率	募集数	合格者数	合格率
福岡県	27年度	390	59	52.7%	210	24	35.3%	173	17	21.6%	55	9	50.0%
	28年度	500	90	70.3%	235	42	44.2%	148	14	29.2%	60	13	65.0%
	29年度	600	125	81.2%	250	40	45.3%	161	7	13.0%	80	10	47.6%
	30年度	710	98	87.5%	240	26	40.0%	172	14	23.7%	110	9	60.0%
	元年度	710	139	85.3%	240	34	55.7%	180	9	20.5%	110	15	57.7%
福岡市	27年度	190	9	27.3%	80	4	16.0%	7	0	0.0%	30	5	33.3%
	28年度	235	44	39.6%	103	17	27.9%	7	0	0.0%	43	11	64.7%
	29年度	300	90	52.5%	171	38	31.9%	6	0	0.0%	60	15	51.7%
	30年度	150	23	31.5%	61	2	4.7%	8	0	0.0%	70	8	50.0%
	元年度	180	23	42.6%	150	7	30.4%	2	0	0.0%	70	7	63.6%
北九州市	27年度	105	17	65.4%	45	3	27.3%	福岡県に含む			25	7	87.5%
	28年度	105	22	66.7%	40	7	31.8%				25	3	60.0%
	29年度	105	9	75.0%	50	8	29.6%				45	3	100.0%
	30年度	160	22	88.0%	93	10	47.6%				50	6	100.0%
	元年度	160	23	76.7%	108	4	30.8%				50	5	83.3%

### 3. 昨年度の卒業・修了生の進路状況

平成30年度の卒業・修了生は、教員に63.7%、教員以外に21.2%の進路選択をしています。教員の中には講師等臨時的任用を含んでいます。

その他には、留学や就活中などが含まれています。





平成31年度・令和元年度

役員等の名簿

◆役員

会長	太田 勝 視
副会長(福岡市)	阿部 二三子
副会長(北九州市)	弓場 和 紀
副会長(福岡)	釜瀬 計 計
副会長(北九州)	末吉 靖 彦
副会長(北筑後)	矢野 俊 一
副会長(南筑後)	安德 和 幸
副会長(筑豊)	西園 雅 幸
副会長(京築)	山田 雅 明
副会長(高校)	井上 善 隆
副会長(各県)	角 正 武
副会長(女性部)	竹井 久美子
副会長(本部)	谷 友 雄
幹事長(本部)	田中 和 隆
副幹事長(福岡)	安部 常 美
副幹事長(北九州)	黒水 律 子
副幹事長(北筑後)	中原 浩
副幹事長(南筑後)	鶴 欣 二
副幹事長(筑豊)	松原 潔
副幹事長(事務局)	田原 正文
副幹事長(事務局)	鍋島 直 明
副幹事長(事務局)	肥後 弘 美
副幹事長(事務局)	笠 宏 照
書記	執行 利 雄
書記	中島 健 次
会計	穴井 仁 人
会計	古賀 真理子
事務局	中村 和 美
事務局	大森 美 香

◆会計監査

福岡	因 征四郎
北九	神崎 恭 行
筑豊	立和田 正 美
筑後	猪口 有 三

◆幹事 ◎：部長 ○：副部長

組 織 部	福岡市	小崎 俊 司
	北九州市	多久和 潔
	福岡	古藤 浩 二
	北九州	◎垂水 隆
	北筑後	香月 浩
事 業 部	南筑後	吉原 守 生
	筑豊	○國本 裕 介
	京築	吉兼 法 子
	福岡市	大戸 和 廣
	北九州市	楠本 孝 一
広 報 部	福岡	◎白木 照 久
	北九州	日高 孝 一
	北筑後	大神 哲 和
	南筑後	坂本 延 生
	筑豊	山本 穰
	京築	○尾崎 和 人
	福岡市	釘宮 正 次
組 織 部	北九州市	半田 康 行
	福岡	松尾 克 己
	北九州	高宮 久 生
	北筑後	◎上野 幹 久
	南筑後	○横大路 智 毅
組 織 部	筑豊	江藤 涼 子
	京築	入江 勝 美

◆大学支援委員会役員

委員長	今 林 久	
副委員長	中岡 晴 彦	清 武 輝
	松井 明 子	城 後 武 史
	中島 幸 男	松 岡 賛
	山本 直 俊	杉 下 守
事務局長	毛 利 公 亮	

女 性 部	福岡市	○西川 圭 子
	北九州市	守田 孝 子
	福岡	段 美穂子
	北九州	井上 俊 子
	北筑後	◎宮崎 信 子
	南筑後	古江 雅 子
	筑豊	勇 憲 子
	京築	丸田 さとみ
	高校等	田中 浩 子
	青 年 部	福岡市
北九州市		桑園 正 憲
福岡		○辻 聡一郎
北九州		中村 芳 雄
北筑後		関 和 浩
南筑後		○平井 陽 伸
筑豊		國本 裕 司
京築	○森山 隆 太	

◆支会・支部長

福岡市	支会長	中村 親 良
	幹事長	杉山 大 樹
北九州市	支会長	高木 眞
	幹事長	花田 博 之
福 岡	糟屋	高田 竜 也
	糸島	木村 英 樹
	筑紫	日永田 浩 明
	宗像	水崎 浩 克
	大学	和田 圭 壮
北九州	遠賀	木原 貞 美
	中間	山中 栄 夫
	鞍手	野副 秀 二
北筑後	直方	與古光 宏
	朝倉	吉田 英 雄
	小郡三井	榎本 成 太
	浮羽	樋口 則 之
	久留米	伊藤 正 博
南筑後	三潁	牟田口 達 朗
	柳川みやま	坂本 昭 夫
	大川	武田 淳
筑 豊	八女	東 博 臣
	大牟田	松尾 博 之
	嘉穂	内藤 正 登
京 築	飯塚	内 園 雅 浩
	山田	古賀 修 治
	田川市	窪田 睦 朗
県 立 高 校	田川郡	角崎 計 介
	京都・行橋	上野 誠
佐賀県	築上・豊前	小林 正 尚
	支会長	城戸 英 敏
宮崎県	幹事長	木村 賢 二
	支部長	青木 一 記
長崎県	事務局	白水 久 夫
	支部長	南中道 隆
山口県	事務局	大久保 朋 広
	支部長	中原 弘 之
熊本県	事務局	並川 和 彦
	支部長	重枝 良 明
大分県	事務局	町田 英 利
	支部長	木山 俊 夫
大分県	事務局	岩下 佳 史
	支部長	岩尾 亮
大分県	事務局	伊東 伸一郎

事業実績

令和元年12月現在

4月	
3日(水)	入学式
14日(日)	会計監査会・役員会
29日(月)	第44回定期総会
5月	
19日(日)	幹事会／支会幹事長会
6月	
1日(土)	大学開学記念日 大牟田支会総会、 宮崎県保護者説明会参加
8日(土)	鞍手／大川支会総会、 佐賀県保護者説明会参加
15日(土)	久留米／北九州市／田川市／田川 郡支会総会、 熊本県保護者説明会参加
16日(日)	福岡市支会総会
21日(金)	糸島／浮羽支会総会、中間青年 部発足会
22日(土)	朝倉／直方支会総会、 山口県保護者説明会参加
29日(土)	八女／宗像／遠賀／山田支会総会
30日(日)	飯塚支会総会
7月	
4日(木)	大学支会総会
6日(土)	山口県支部総会
14日(日)	広報幹事会
20日(土)	役員会、組織、事業、青年部、 女性部幹事会、三潁支会総会
27日(土)	小郡・三井／嘉穂支会総会、宮 崎県支部総会 教職員大学10周年記念式典
30日(火)	未来奨学金授与式
8月	
3日(土)	柳川・みやま支会総会
4日(日)	夏期研修会
18日(日)	県立学校・高校支会総会
30日(金)	筑紫／中間支会総会
9月	
7日(土)	糟屋支会総会
14日(土)	役員会
20日(金)	大学卒業式
10月	
5日(土)	組織部・青年部幹事会、南筑後 地区拡大支会長会 北九州市女性部年次会
12日(土)	京築同窓の集い
13日(日)	広報幹事会
19日(土)	北九州地区／北筑後地区拡大支 会長会、熊本県支部総会
26日(土)	学生・新卒・若手会員情報交換会
11月	
2日(土)	筑豊地区拡大支会長会
16日(土)	福岡地区拡大支会長会
17日(日)	福岡市拡大支会長会
24日(日)	大学創立70周年記念式典 北九州市同窓のつどい
30日(土)	佐賀県支部総会、長崎県支部総会
12月	
1日(日)	役員会、幹事会
7日(土)	顧問会・大学支援委員会
8日(日)	広報幹事会
1月	
11日(土)	福岡市新卒・若手研修会
19日(日)	役員会
25日(土)	大分県支部総会、宗像支会研修 会・新年若手会員激励会
31日(金)	浮羽支会研修会
2月	
9日(日)	新年の会(北九州市、京築担当)
15日(土)	久留米支会研修会
16日(日)	女性部2月のつどい
23日(日)	支会長会
3月	
25日(水)	大学卒業式・修了式

彫  
塑



「前途」  
昭和62年卒 小森 博之  
(小郡三井支会)



「白沙村莊」水彩  
昭和35年卒 薙野 敏光  
(小郡三井支会)



「朝日にきらめく水面」油絵  
昭和34年卒 石川 信雄  
(久留米支会)



「天の川」  
昭和47年卒 岩谷 文勝  
(北九州市支会)



「面浮立 (めんぶりゅう)」  
昭和47年卒 白石 寛  
(北九州市支会)

絵  
画

写  
真



俳  
句

昭和42年卒 中村 イソ子  
(大川支会)

玉虫は古代の色のまま空へ

天に無垢捧げ泰山木の白

乗客は薫風なりし無人駅

昭和51年卒 矢野 俊一  
(朝倉支会)

即位祝<sup>ほ</sup>ぐ国旗掲揚風五月

まっすぐに生きねばならぬ麦青む

七夕紙天まで届け子らの夢

書

「田子の浦にうち出でてみれば白妙の  
富士の高嶺に雪は降りつつ」



昭和47年卒 金瀬 和子  
(宗像支会)

編集後記

城山会会報誌は、今回五〇号の記念すべき節目を迎えました。広報部では、OB会員層が増えていくことを受け、「第二の人生を生き生きと」の特集欄を設け、退職後も新たな生き甲斐を持つて歩んでおられる方々を紹介させて頂きました。今後も会員の絆が一層深まるよう魅力ある会報誌の発刊に向け、取り組んでいきたいと考えています。尚、会報誌(第48号〜50号)については、福岡教育大学同窓会のホームページにて閲覧することができます。